

第7回エキサイトよこはま22 懇談会

# 平成27年度の主な取組と 28年度以降の取組・検討事項

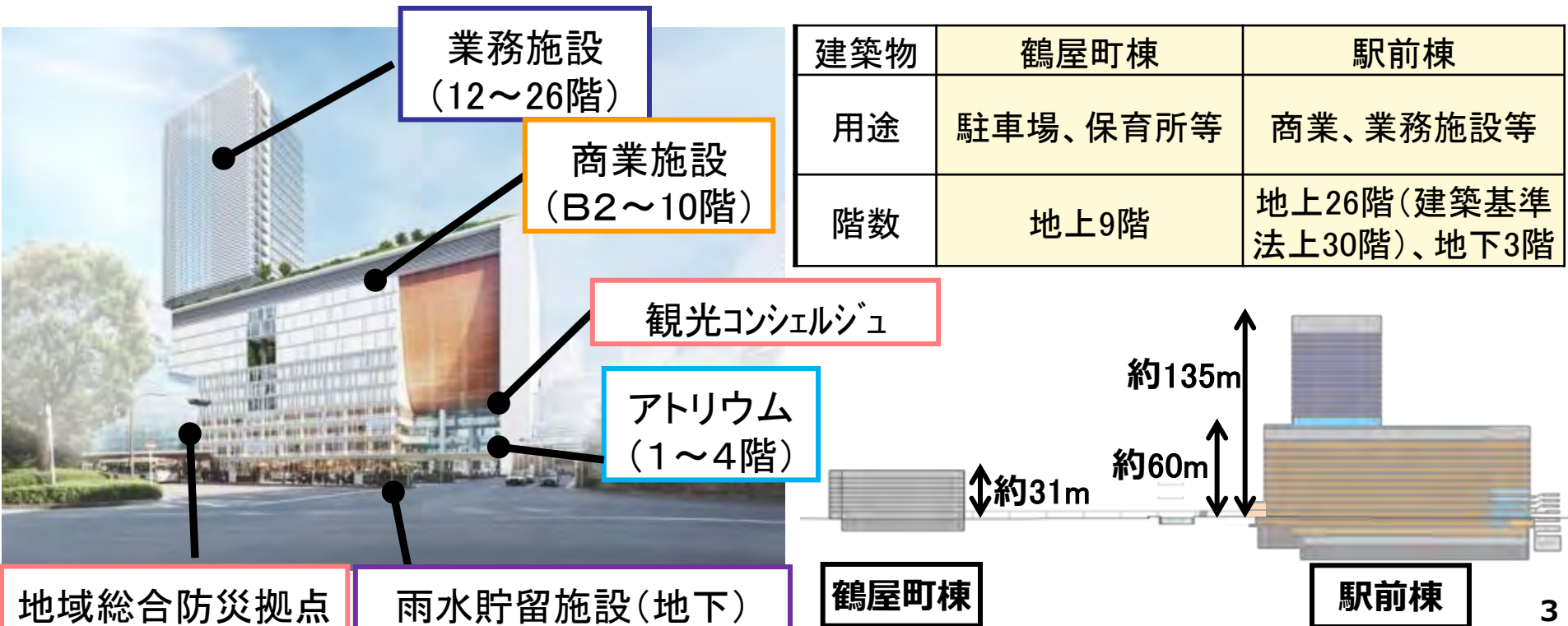
- 西口
- 東口
- 横浜駅周辺地区全体

# 西 口

- **（仮称）横浜駅西口開発ビル**
- **西口地下街中央通路接続事業（馬の背解消）**
- **中央西口、きた西口駅前広場**
- **鶴屋橋架け替え工事**
- **国家戦略特区（きた西口鶴屋地区）**
- **地下街の防災推進**
- **西口将来まちづくり検討**

# (仮称) 横浜駅西口開発ビル

- 都市再生特別措置法に基づく民間都市再生事業計画として、国土交通大臣の認定を受けました。(平成27年9月17日)
- 駅前棟が工事着手され、東京オリンピック・パラリンピックの前の完成を目指して工事が進められています。
  - ・駅前棟着工式 : 平成27年10月19日
  - ・鶴屋町棟工事着手 : 平成30年度(予定)
  - ・工事完了 : 平成32年(予定)



# (仮称) 横浜駅西口開発ビル



アトリウム (イメージ)

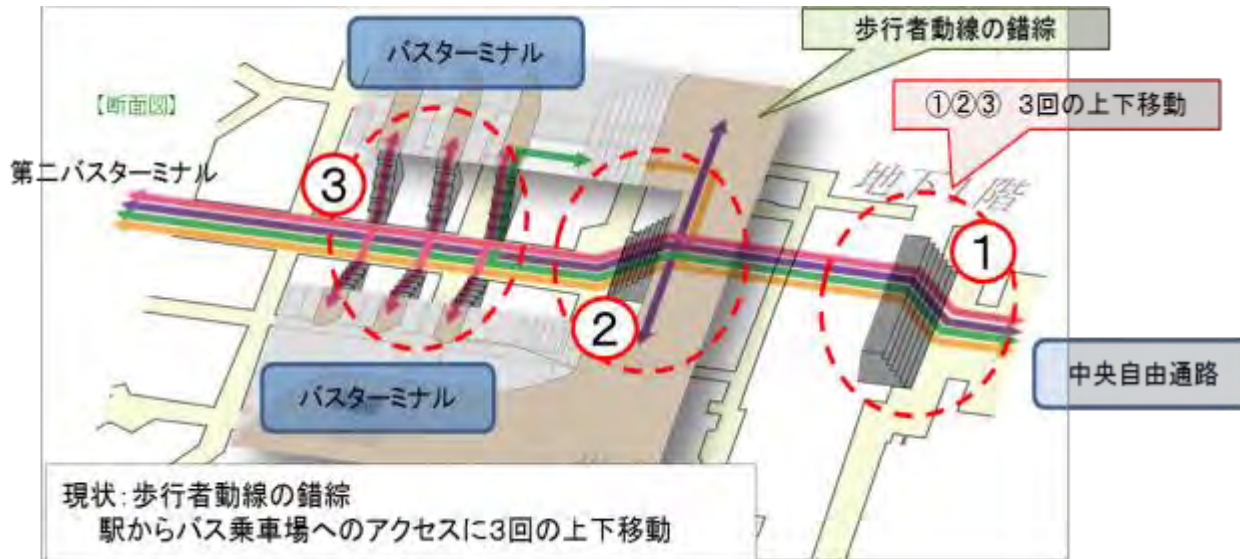


線路側歩行者デッキ (イメージ)

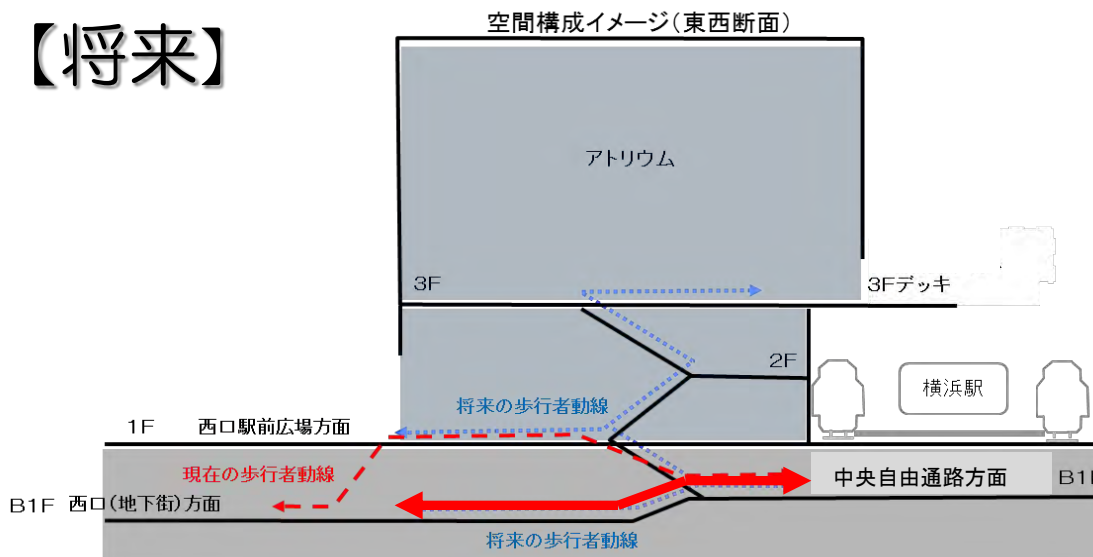


# 西口地下街中央通路接続事業（馬の背解消）

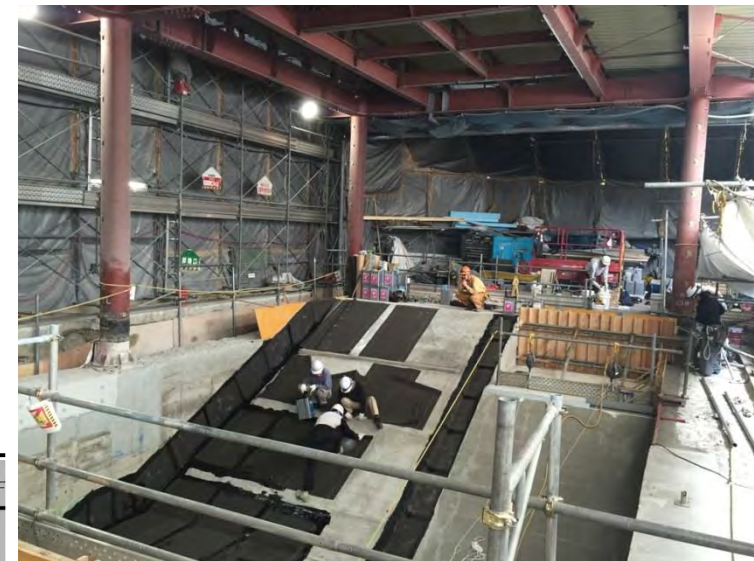
## 【現況】



## 【将来】



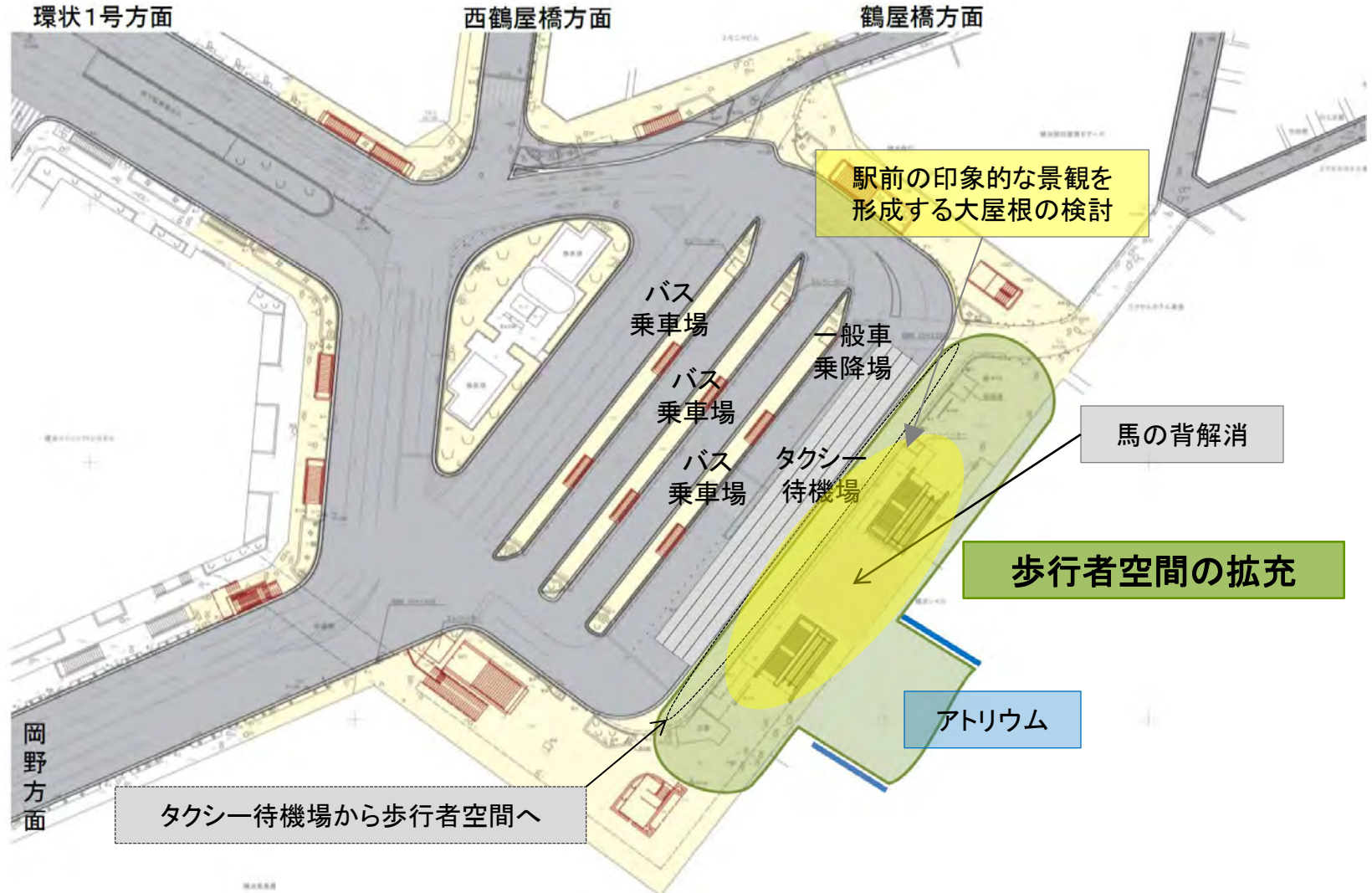
平成27年度 工事着手 平成32年 完成予定



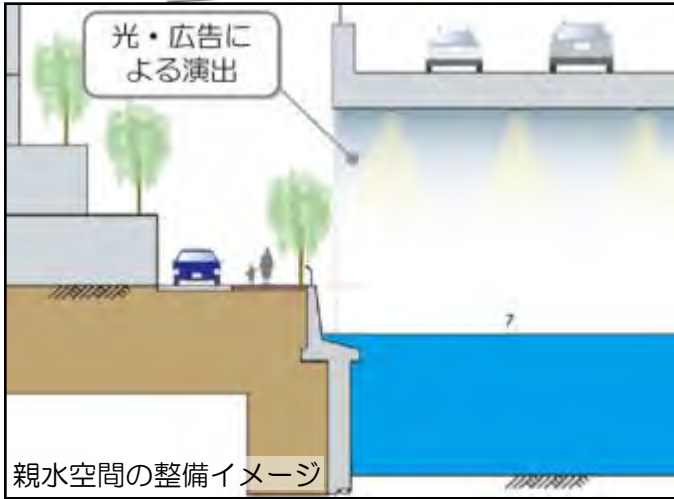
工事状況写真（南側階段）  
（平成28年5月現在）

# 中央西口駅前広場

西口開発ビル・馬の背解消と連動した駅前広場の改修(歩行者空間の拡充)を進めます。平成32年度完了予定です。



# きた西口駅前広場



- ◆ 新設する昇降施設と河川の間等に可能な限りフラットな空間を確保し、修景を中心とした親水空間を整備
- ◆ 歩行者デッキや鶴屋橋と連携した空間デザインやライトアップ計画等を検討
- ◆ 平成32年度 完成予定

水辺や橋詰の修景を中心とした親水空間の整備

地下・地上・デッキを結ぶ昇降施設、屋根の整備  
ターミナルコア

歩行者空間の確保

歩行者用通路

歩道状空地

将来のまちづくりにおける歩行者空間等の創出

鶴屋橋

帷子川分水路

西口開発ビル  
きた西口鶴屋地区

歩行者デッキ

きた通路

西口開発ビル

西口開発ビル



# 鶴屋橋架け替え工事

(橋梁架替イメージ)

(架替前)



(架替後)



## ■期待される効果

### (1) 治水安全度の向上

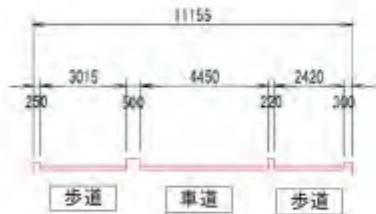
橋りょうの架け替えに伴う橋脚の撤去などにより、帷子川分水路の通水量を増加させることが可能となり、台風時において浸水被害が発生した横浜駅周辺における帷子川本川の治水安全度が向上

### (2) 歩行環境の向上

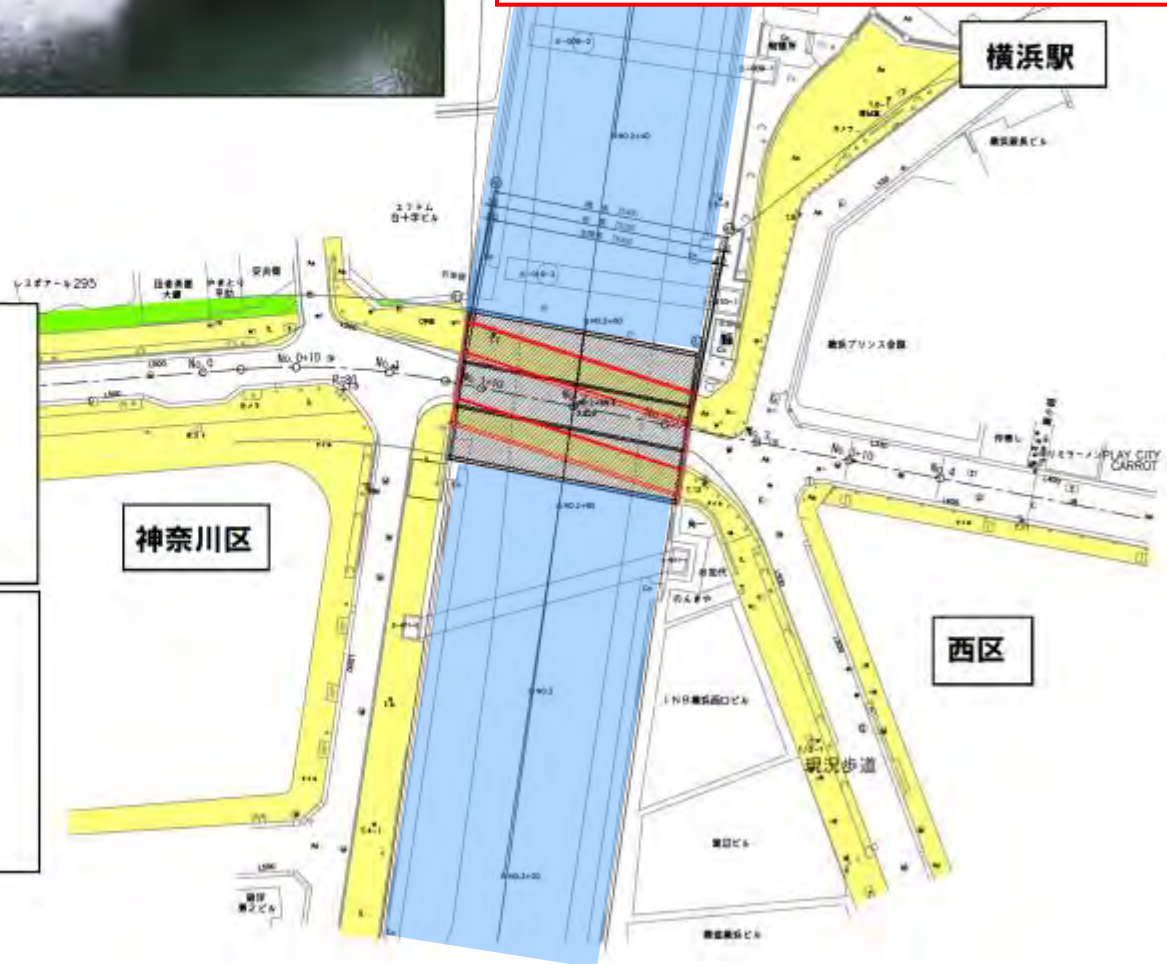
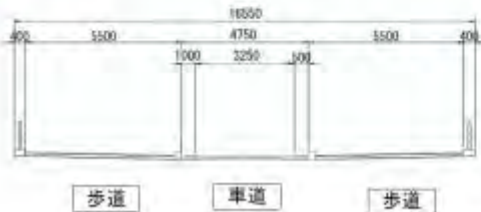
道路の拡幅を行うことにより、歩行の円滑化など、周辺のまちづくりにも対応した歩行環境が向上

(断面構成図)

(施工前)



(計画)

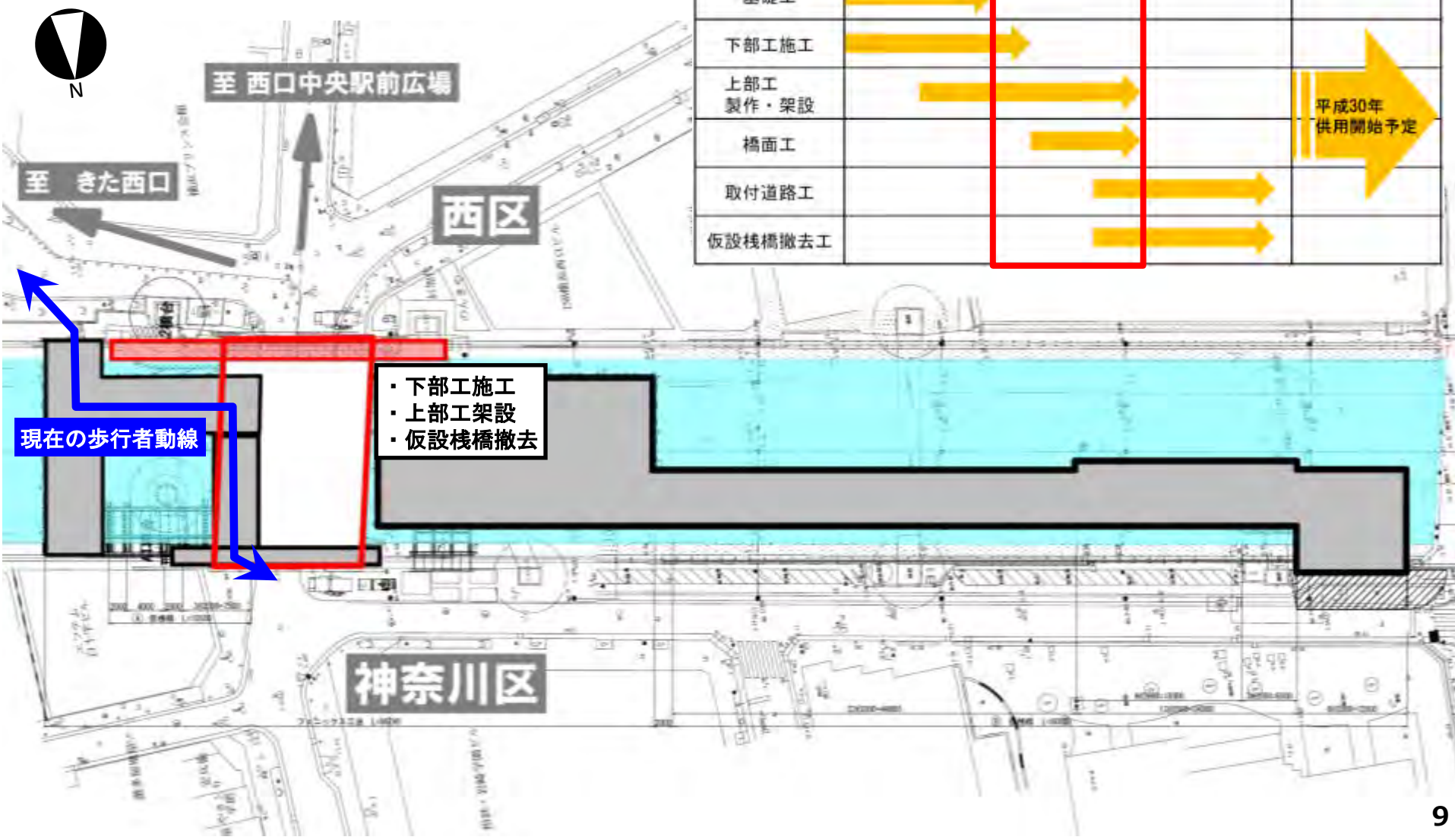


# 鶴屋橋架け替え工事

## ○ 28年度の工事内容

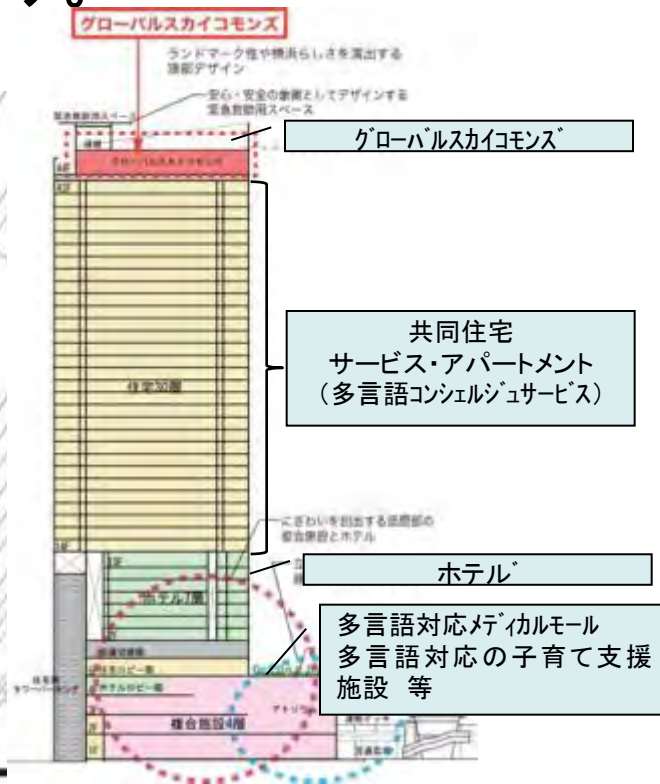
【概略工程表】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
基礎工	→			
下部工施工	→			
上部工 製作・架設		→		→ 平成30年 供用開始予定
橋面工		→		
取付道路工			→	
仮設棧橋撤去工			→	



# 国家戦略特区（きた西口鶴屋地区）

- 平成27年11月の東京圏国家戦略特別区域会議において、計画素案が承認されました。
- 現在、都市計画の手続きを進めており、横浜市都市計画審議会その後、東京圏国家戦略特別区域会議を経て、内閣総理大臣認定（都市計画が決定・変更）される予定です。平成33年度の工事竣工を予定しています。



# 国家戦略特区（きた西口鶴屋地区）



デッキ上で、横浜駅方面から台町交差点方面を見たイメージ



# 地下街の防災推進

- 大規模地震発生時における地下街の安心な避難空間の確保等を図るために、国土交通省が創設した「地下街防災推進事業」を活用し、平成27年度は、横浜駅西口地下街（ジョイナス）の防災性向上対策を実施しました。
- また、相鉄アーバンクリエイティブが「横浜市特定建築物等耐震改修等事業」を活用し、横浜駅西口地下街（ジョイナス）の耐震診断を実施し、一定の耐震性を有している確認をしました。



【地下街防災推進事業】

# 西口将来まちづくり検討

## 西口駅前まちづくり検討会の開催

- ・西口開発ビル先の先を見据えた西口駅前広場の将来的な整備、および駅前広場隣接街区のまちづくり誘導について検討し、街区再編を視野に入れた駅前広場空間の整備方針策定を目的とした検討会を立ち上げました。
- ・平成27年9月に第1回検討会を開催し、西口駅前の現状と課題を共有しました。



※みなみ西口は、周辺関係者との勉強会を立ち上げ検討を進めています

# 東 口

- **東口基盤整備**
- **横浜駅東口地区（ステーションオアシス）**

# 東口基盤整備（東口再編のコンセプト）

## Open Sky Terminal

羽田空港⇄京急線、空港リムジンバス  
成田空港⇄成田エクスプレス、空港リムジンバス

横浜駅東口

Open Sky Terminal

横浜の顔としての  
魅力ある空間

・空港を感じさせるダイナミックな開かれた空間  
キーワード：顔、シンボル、ダイナミック  
横浜らしさ、開放感

国際空港直結  
世界への玄関口

・国際線の増加による外国人訪問者の増加  
キーワード：国際、利便性、機能性、空港直結  
地域の交通拠点、

災害にも安心安全な空間

・来訪者にも安心安全な駅空間  
キーワード：避難動線確保、滞留スペース確保  
浸水対策、バリアフリー

みなとみらい 21



隣接する街区の顔との対比

羽田・成田空港



### 横浜の顔として魅力ある空間

- 横浜の観光拠点としての印象に残る景観づくり
- 国際的で多様な交流の生まれる憩いのスペース
- 立体的な一体感を持ち、空への広がりを感じる駅空間

### 災害にも安全安心な空間

- デッキレベルによる見通しのよい避難動線
- 避難場所として認知しやすい空間
- わかりやすくバリアのない歩行者動線

### 国際空港直結・世界への玄関口

- 羽田空港のアクセス強化
- 来街者にもわかりやすいユニバーサルな乗継動線
- 横浜都心臨海部全体へ案内するゲート機能



# 東口基盤整備（機能配置の基本的な方針）

## コンセプトを実現する 駅前広場のイメージ

国際空港直結・世界への玄関口



鉄道駅直結の  
大阪駅バスターミナ  
ル



災害にも安全安心なまち



新横浜駅前のデッキ空間

横浜の顔として魅力ある空間



ドイツ ベルリン中央駅

## 機能配置の 基本的な方針

地上  
レベル

鉄道との接続（鉄道、車、人）  
国道1号、首都高との接続

デッキ  
レベル

Open Sky Terminal  
見通しのよさ、  
周辺商業とのつながり  
海側から山側への避難

地下  
レベル

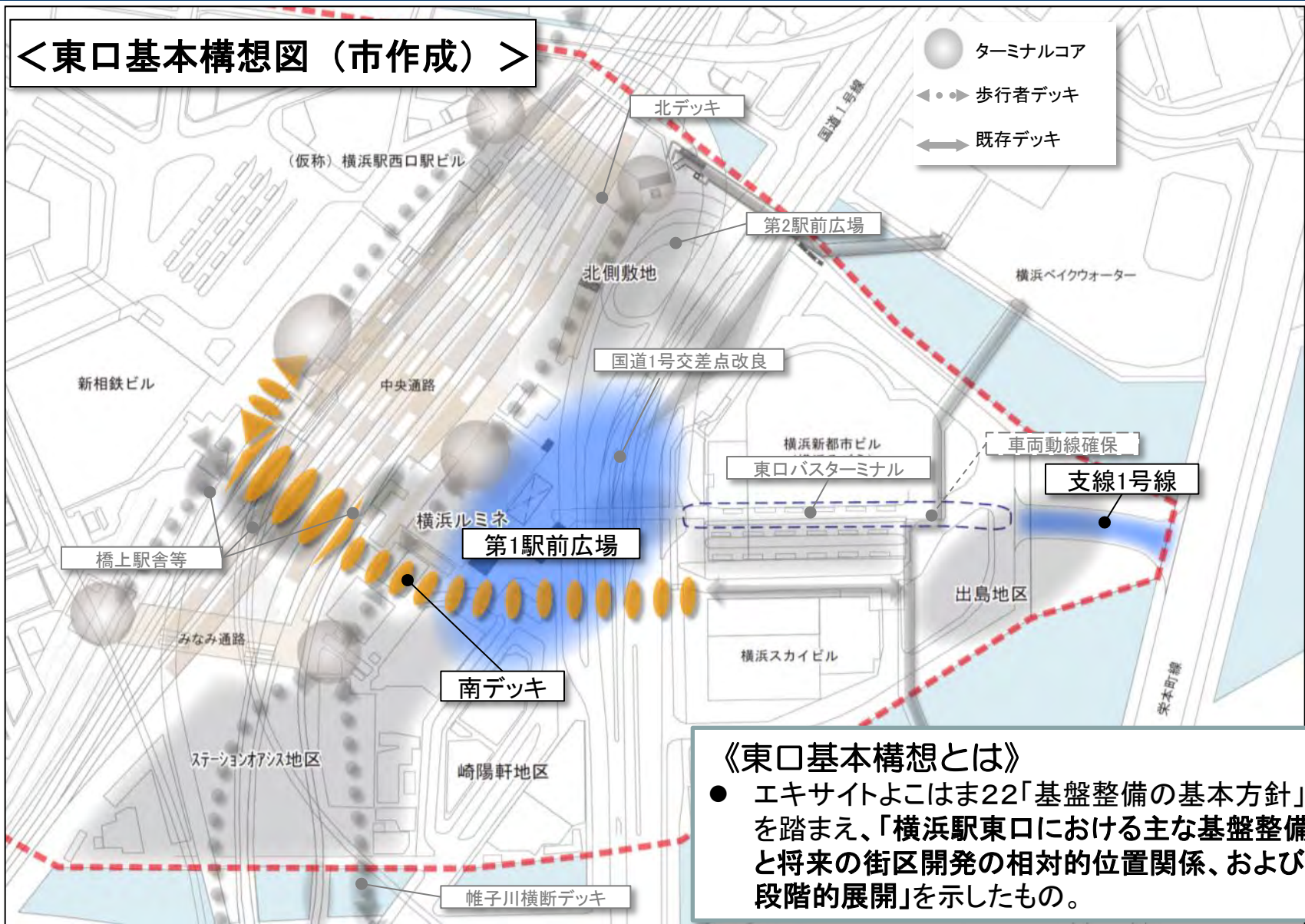
周辺商業とのつながり

一般的に駅前広場は以下のような機能を持つ空間で構成される。（機能は「駅前広場計画指針」より）

## 駅前広場の空間構成要素

機能	東口駅前広場への導入機能
交通空間	<p>交通手段の乗換拠点として鉄道と多様な交通手段をつなぐ</p> <p>①交通結節機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港連絡バス</li> <li>・都心臨海部回遊バス</li> <li>・高速バス</li> <li>・路線バス</li> <li>・タクシー</li> <li>・LRTなどの新たな交通</li> </ul>
	<p>都市（地区）の拠点を形成する</p> <p>②市街地拠点機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすくバリアのない歩行者動線</li> <li>・駅とまちをつなぐシンボリックな歩行者空間 など</li> </ul> <p>憩い・集い・語らいの中心となる</p> <p>③交流機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者滞留空間</li> <li>・民間開発と連続した賑わい空間 など</li> </ul> <p>公共的サービスを提供・各種情報を提供する</p> <p>④サービス機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光や交通運行などの情報提供施設</li> <li>・災害時の避難情報等の提供施設 など</li> </ul>
広場空間	<p>都市の顔としての景観を形成</p> <p>⑤景観・環境機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「横浜らしさ」を象徴する景観形成 など</li> </ul> <p>防災活動の拠点となるー避難・緊急活動</p> <p>⑥防災機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく安全な避難動線 など</li> </ul>

# 東口基盤整備（東口基本構想）

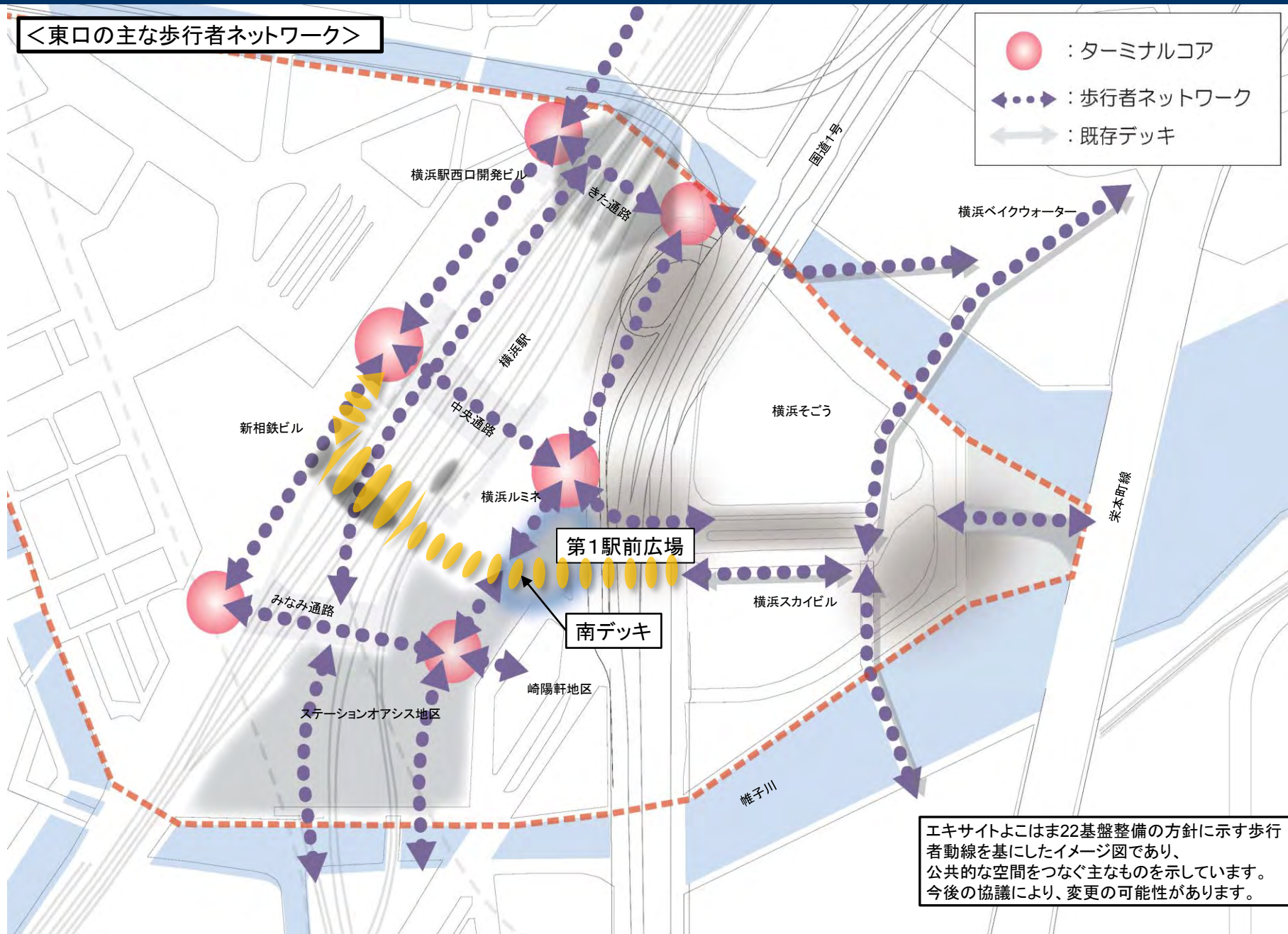


**《東口基本構想とは》**

- エキサイトよこはま22「基盤整備の基本方針」を踏まえ、「横浜駅東口における主な基盤整備と将来の街区開発の相対的位置関係、および段階的展開」を示したもの。

# 東口基盤整備（歩行者ネットワーク）

＜東口の主な歩行者ネットワーク＞

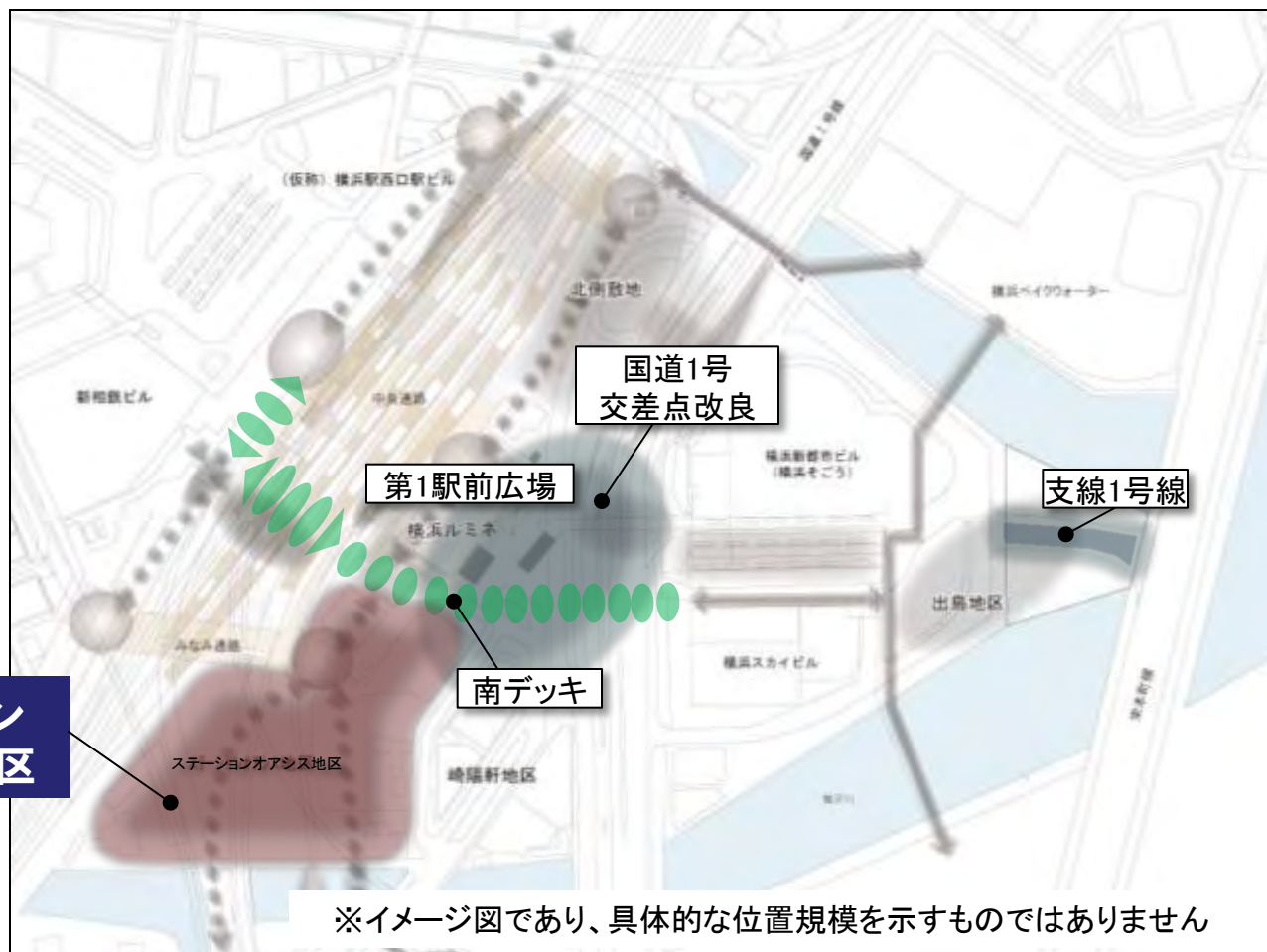


- : ターミナルコア
- ⋯➡ : 歩行者ネットワーク
- ➡ : 既存デッキ

エキサイトよこはま22基盤整備の方針に示す歩行者動線を基にしたイメージ図であり、公共的な空間をつなぐ主なものを示しています。今後の協議により、変更の可能性があります。

# 横浜駅東口地区（ステーションオアシス）

- 横浜駅東口地区開発推進協議会（日本郵政、東日本旅客鉄道、京浜急行電鉄、横浜市）で、検討が進められています。
- 国際都市の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいのある都市空間の形成等のために、土地の高度利用（用途：商業、業務、宿泊等）を図ります。



## ○ 地区コンセプト（案）

～国際都市横浜の玄関口として、都心の魅力を実感でき、豊かな時間を過ごせるまち

- ①賑わいを創出する空間形成及び歩行者ネットワーク
- ②横浜駅東口の賑わい創出
- ③国際都市横浜の玄関口として相応しい印象的な都市景観
- ④国際交流に優れた都市機能の強化
- ⑤都心部における防災機能の強化
- ⑥自転車利用環境の改善
- ⑦環境対策など付加価値の向上

## ○ 平成28年度末の都市計画決定を目指してステーションオアシス協議会で検討中

# 横浜駅周辺地区全体

- **治水対策（内水）**
- **防災の取組（地域総合防災拠点）**
- **交通政策審議会答申第198号での位置づけ**
- **横浜駅周辺案内サインの更新**
- **エリアマネジメントの推進**

# 治水対策（内水）

地下街等、商業施設が集積する東西のセンターゾーンの内水対策に官民連携で取り組みます。  
 公共下水道の整備により時間74ミリの降雨（概ね30年に1度の確率で発生する降雨）に対応、さらに民間貯留施設の整備と併せて時間82ミリの降雨（概ね50年に1度の確率で発生する降雨）に対応した内水対策に取り組みます。

		第1ステージ(概ね10年)	第2ステージ(概ね10年～概ね20年)	将来
外水	河川	河川整備基本方針、整備計画の策定 河口部改修 設計・協議 鶴屋橋架け替え	まちづくりに合わせた 鉄道・道路橋梁架け替え 河床掘削	
	安全度(※1) mm/hr	概ね1/20 概ね65	概ね1/50 概ね82	1/100 93
内水と外水の連携		検討・調整		
内水	下水	内水対策計画の策定 設計・協議 センターゾーン+隣接地区 施設整備		
	安全度 mm/hr	1/10 60	センターゾーン+隣接地区: 1/30 74	
	開発にあわせた敷地内貯留	ルール確立 ・1/30～1/50 ・200m <sup>2</sup> /ha (仮称)横浜駅西口開発ビル	開発にあわせた敷地内貯留	
	安全度 mm/hr	1/10 60	センターゾーン(西口): 1/35 76	センターゾーン: 1/50 82
災害に強い防災・減災まちづくり			開発、建替えにあわせた地盤の嵩上げ 宅地・道路面などの計画的な地盤の嵩上げ	

※1 河川の治水安全度は、横浜駅周辺(西口)における流下能力を示す。  
 流域全体の治水安全度向上に向けては、河床掘削のための橋梁部の対策が必要。

# 治水対策（内水）

## ○横浜駅周辺地区特定地域都市浸水被害対策事業の取組

（＊下水道法改正により国土交通省が創設した「浸水被害対策区域制度」を活用した国内初の取組）

### 1. 事業の目的

横浜駅周辺のまちづくり計画（エキサイトよこはま22）に合わせ、横浜駅周辺地区の浸水被害の防止を目指します。具体的取組としては、計画対象区域内に時間74ミリの降雨に対応する公共下水道を整備し、将来的には民間事業者による雨水貯留施設等の整備と併せて、官民が連携して時間82ミリの降雨への対応を目指します。

### 2. 事業の位置

計画対象区域：横浜駅周辺地区（次頁参照）

### 3. 事業内容及び年度計画

#### (1) 事業内容

- ・公共下水道施設：浸水対策計画策定、新規幹線・ポンプ場等整備事業、計画対象区域の浸水被害の防止に寄与する再整備・再構築事業等
- ・民間事業施設：雨水貯留施設等の設置

#### (2) 年度計画

		H27	H28	H29	将来
公共下水道施設	新規幹線・ポンプ場等	計画・設計		設計・工事(概ね10年)	
	再整備・再構築等	→			
民間事業者による雨水貯留施設等		→			

（※本事業計画は、実線部分を対象とします。）



# 治水対策（内水）

内水対策として、横浜駅周辺の治水安全度向上に向けて、海域に放流する下水道施設の整備に取り組みます。



# 防災の取組（地域総合防災拠点）

## 「横浜駅地域総合防災拠点」の設置

新たに建築される「（仮称）横浜駅西口開発ビル」内に200㎡の「横浜駅地域総合防災拠点（仮称）」を設置予定です。

発災時における「情報連絡本部」等のスペース、また「横浜駅周辺混乱防止対策会議（部会を含む）」のスペースとしてなど活用方法を検討しています。



避難誘導マップ



イメージ写真

# 交通政策審議会答申第198号での位置づけ

平成28年4月20日、交通政策審議会から国土交通大臣に、  
答申第198号「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」  
が答申されました。(\*)

この中で、横浜駅は「駅空間の質的進化に資するプロジェクト等」のうち、  
「国際競争力の向上が求められる地域の拠点となる駅」に位置付けられました。

## 〔8〕横浜駅

- ・ 6社局の鉄道事業者が乗り入れる、東京圏南西部の拠点駅。
- ・ 国際都市の玄関口としてふさわしいように、南デッキ新設等による乗換利便性や回遊性の向上が図られるとともに、災害時に対応する滞留スペースの創出に期待。

(国交省資料より抜粋)

\* 平成26年4月18日、国土交通大臣から交通政策審議会に、  
「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」が諮問されました。

# 交通政策審議会答申第198号での位置づけ【参考】

## 横浜・川崎

横浜・川崎関連の鉄道ネットワークのプロジェクトについては、以下(右図)が示されました。

<19>東海道貨物支線貨客併用化及び川崎アプローチ線の新設(品川・東京テレポート～浜川崎～桜木町、浜川崎～川崎新町～川崎)

<20>小田急小田原線の複々線化及び小田急多摩線の延伸(登戸～新百合ヶ丘、唐木田～相模原～上溝)

<21>東急田園都市線の複々線化(溝の口～鷺沼)

<22>横浜3号線の延伸(あざみ野～新百合ヶ丘)

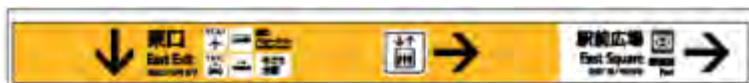
<23>横浜環状鉄道の新設(日吉～鶴見、中山～二俣川～東戸塚～上大岡～根岸～元町・中華街)



# 横浜駅周辺案内サインの更新

「横浜駅」は鉄道事業者などの関係者と連携し、「コモンサインプロジェクト」として、統一サインや多言語対応等、全国でも先進的な取組を実施。

（仮称）横浜駅西口開発ビルの開業や東京オリンピック・パラリンピックなどに合わせて、駅周辺関係者と連携した案内サインの更新に向けて、具体的な検討を進めます。



駅構内サイン

## <27年度実績報告>

○「はまマネ協議会」の後援によるイベントの開催

- ・スカイビル・リサイクルマーケット 他10件
- ・第32回スターライトヨコハマイルミネーション 他8件

## 調整会議状況



## イベントポスター



# エリアマネジメントの推進

## <新規活動報告>

- **公開空地活用に係るエリアマネジメント団体認定**
  - ・ **「横浜駅東口はまテラス有効活用委員会」**
- **横浜駅周辺魅力発信プロジェクト**
  - ・ **案内サイン更新の推進**
  - ・ **Wi-Fiの整備推進**
  - ・ **ブログによる情報発信**
- **横浜駅環境美化推進プロジェクト**
  - ・ **放置ゴミ対策に対する効果的な清掃活動マネジメント**

## <今後の検討課題について>

- **はまマネ協議会の仕組みについて**
- **財源確保及び活用法について**

# エリアマネジメントの推進（公的空間の活用によるまちの賑わいづくり）

公共空間と民間敷地の空地・建物等が一体となってまちの賑わいを作り出せる街を目指し、エリアマネジメントによる公共空間の利活用について、具体的な取り組みを踏まえた検討を進めていきます。



浮棧橋



パルナード通り